

市誌編さんだより Vol.23

令和3年夏に刊行予定!いよいよ目前です!! 今号は3月13日開催のシンポジウムの概要を紹介します。

たかはま 歴史・まちづくりシンポジウム3

まちのあゆみを“つむぐ・つなぐ”を開催

シンポジウムは全3部構成で、第1部は平成28年度から実施した市誌編さん事業の調査や今後の展望について報告しました。第2部は市民の皆さんに対して実施した聞き書き調査について、執筆担当者である佐野直子氏より基調講演をいただきました。第3部のパネルディスカッションではどのような点を重視して執筆が行われたかの紹介や、発刊後の取り組みについても話が挙がりました。その後質疑応答も実施しフロアからの活発な質問をいただきました。市誌の発刊へ弾みをつけ、発刊後のことも考えていく意義のあるシンポジウムとなりました。

第2部 基調講演「高浜市誌の挑戦～『聞き書き』の手法を『まちづくり』に活かす試み～」



- 聞き書きは読んで字のごとく話者の話を聞いて書くことであり、決して難しいことではありません。
- 聞き書きは何かを知りたい・聞きたいという思いから始まり、色々な人に話を聞く中で「この人なら知っているかも」という情報が出ることで、普段出会わない人々が出会い、結果として地域の人々を繋ぐネットワークを作る・広げる効果があります。
- 今後消えてしまう恐れのある人々の記憶など、文字資料には残されていないことを、聞き書きをととして記録化することが重要です。

第3部 パネルディスカッション

- 市誌が刊行されたら終わりではなく、そこからどのように活用していくのか考え、行動することが大切です。
- 市誌をきっかけに文化に興味をもつ人を増やし、そのうえで市民参加の場を設け、その参加者を核に文化の研究会のようなものが発足できたらいいですね。
- 市のあゆみがわかる本なので、今後さまざまな地域活動の中で活用してもらいたいです。
- まち歩きや学校で文化財に触れてもらえる機会を設けるなど、積極的なアウトプットを実践してほしいです。



参加者の声

一部アンケートより抜粋

- 郷土の歴史や、現在・未来を考えて行くには、いっしょに調べ考える場があるといいのではないのでしょうか。
- 高浜市が好きだからできるそんな頑張っている姿に励まされました。
- 聞き書きで世代の違う人々に出会って、その人の人生を聞いてあげられたことは、どちらにとっても素敵な出会いだったのではないのでしょうか。人とのつながりを感じました。

コーディネーターに市誌編さん委員会委員長の曲田浩和氏、パネリストに各編の部会長である伊藤利和氏、三島一信氏、高木秀和氏、佐野直子氏、粕谷亜矢子氏を迎え、さまざまな発言をいただきました。

◇ 自宅や地域に、高浜に関する書物、写真、チラシなど(とくに明治時代～昭和)がありましたら、ぜひ情報をお寄せください。
◇ 市誌編さんに関する内容は、市公式ホームページの「文化スポーツグループ」のページでも紹介しています!

問合せ先 [いきいき](#) 文化スポーツグループ ☎52-1111(内線331)